

国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（平成30年度第7回）議事録

日 時：平成30年11月2日（金）10:00～11:30

場 所：国立がん研究センター 管理棟 第1会議室

出席者：中釜斉理事長、南砂理事、松本洋一郎理事、間野博行理事、小野高史監事、増田正志監事

欠席者：児玉安司理事、北川雄光理事

I. 前回（平成30年度第6回）議事録の確認

- ・前回議事録について了承。
- ・議事録署名人を松本理事と増田監事に依頼。

II. 審議事項

1. 6か年方針の検討状況

資料に沿って説明され、審議された。

【主な意見等】

- ・がんが基軸になるのは間違いないが、少し広げて、がん以外の病気でも連携できる部分については考えてもいいのではないかと。
- ・NCの在り方検討会でも、疾患横断的な取組・連携を求められており、各NC領域を踏まえながら、機能的な連携の在り方について検討している。そのエッセンスも踏まえながら、この中にどう取り入れるか考えていきたい。
- ・次の情報基盤を担っていくことになる情報統括センターの体制強化は切実なところがあると思うが、その増員についてはどうか。
- ・グランドデザイン策定において、体制強化の必要性が指摘されており、長期的な強化、当面の強化について、部門長と理事長の意見交換においても課題として議論されている。
- ・情報システムについては、求められる役割が複雑化、高度化してきており、対応するためには、事務部門や情報統括センターのしっかりした体制構築が必要。がんゲノム情報管理センターの情報は国にとっても大きな財産になっていくものだが、非常にセキュアな情報を扱うことになり、統合データベースを利用するモデルを作り、活用するためにもできる限りの体制強化が必要と認識している。
- ・研究から実装、政策提言まで求められている中で、課題や期待に応えられるものになっているか、今後とも話し合っていきたい。
- ・財務運営方針について、借入して固定資産を取得し、資産を壊すときに、借入残額が残っている状態だと、借金の上に借金を重ねることになる。試算表を見ていると、借金が残っているのに更に借りることになるようにも見え、返済できるのかどうか懸念がある。

返済財源については、医業収支率103.5%を前提としているが、今後の病床稼

働率を考えると無理が出てこないか懸念もある。

全体として借入の返済財源をどうするか、毎年度、病院の収益が確定した時、その度毎に見直していくと思うが、借入れについて基本的な考え方の整理が必要ではないか。

- 建替費用については、1/4を自己資金で、3/4を財投で借入れして、5年据え置きで20年で返済していく。東病院で大体10億円くらい毎年返済となる。返済については、東病院の建替後、返済が本格化する平成45年度におけるキャッシュフローを見ている。収益率や足元の状況は変わるので、これを一つの財務管理のツールとし、状況に応じ見直しながら、これから出てくる様々な投資に関して、将来の病院建替を踏まえた身の丈に合った額にしていく。一方、建替は必要なので、経営目標として収益も考えていく必要がある。数字については個別にご指導を賜りたい。
- 借入残額について、大学で監査や意見交換をしたとき、非常に重い問題と捉えていた。どれだけの借金に耐えられるか、どこがピークで、どこまでいったら危険水準かを考慮した上で、5年後、10年後にいくら借金が残っているかについて資料を作って話し合っていた。大学でも借入残については重い問題だという話になっていた。センターでも借入れについては慎重を期していただきたい。
- 消費税増税の影響としては、都会の大病院ではほとんど補填されず持ち出しになり、我々は持ち出す側になるといった話であり、前提条件はこれでいいのかという検証も必要。ベースラインケースと名づけているが、試算は関係者が誤解しないように、これはどういうものを共有することが大事。置いた前提と、置いていない前提があり、その中で計算するとこうなるという発展途上にあるベースラインであるとしっかり認識を共有することが大事。

昨年度決算が出たときにも申し上げたが、28年度は非常に収益がよかった年で、28年度に特有な要因を収益側からも費用側からも排除して、実力収支としてどれだけの利益、キャッシュを出せるかをつかんでおくことが必要。

収支予想は、仮説と検証、描いたシナリオで数字上やっつけられるか検証し、シナリオを変えていかななくてはいけない。収益内で何をやるか、センター全体のリソースの再配置ということでもあると思う。システムでも人材確保でも、要望をそのまま全部積み上げるといふことにはならない。どこかを効率化したり、重点シフトしたりして、それが全体として納得できる内容と数字に落ち着いたところがシナリオのゴールになると思う。
- BCG作成時と今回作成のベースラインケースについては、中長期CFのシミュレーションにおける前提条件について比較しているが、足元の前提条件は平成29年度の決算を踏まえた数字にしている。建替費用についてはBCGと同じ条件にしている。大規模改修はこれまでの精査を反映している。定常投資の関係はシステムと医療機器で明確になった部分を置き換えている。医業収益は置き方を少し変え、横置きではなく、36年度以降は人件費見合いは反映している。
- ベースラインケースをもとに、特殊要因や実力、いろいろな要素を考えつつ、このような情報共有をしながら進めていきたい。

2. 6NCの在り方検討会の検討状況

資料に沿って説明され、審議された。

【主な意見等】

- ・組織については、色々な意見があるが、特に求められているのは、NCの持っているデータの共有、支援機能、患者横断的な対応への期待。それに応えられるよう、ご指摘の点を踏まえながらしっかり進めていきたい。

III. 報告事項

1. 平成 29 年度業務実績評価結果

資料に沿って報告された。

2. 卵巣がんを早期から検出できる血液中のマイクロRNA組み合わせ診断モデル

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・これ以外のがん種にも適用ができそうか。
- ・現在、試験をしているものに関しては、他のがんでも素晴らしいスコアが出ているものがある。今回ほどではないが、肺がんや食道がん、胃がんでも、AUCスコアが0.88や0.9のものが見つかっており、順番に前向き臨床性能試験に入っていく。

3. 新研究棟の免震装置について

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・大規模な工事が必要となるか。
- ・工事の必要性については確認中で、調査を続けているので、追って報告したい。

4. 政府の会議の状況等

資料に沿って報告された。

5. 広報実績

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・New York Times に掲載された、オメガ3系脂肪酸の摂取による不安症状の軽減をメタアナリシスで確認という記事について、取り上げられたことについてどのような認識をもっているか。
- ・海外の新聞に取り上げられることは珍しいが、この研究に関しては、6NCコホートでの連携や、海外の機関と一緒にやってきたことが影響したのではないかと思うが、今後ともこのような発信をして行ければと思う。サプリに関しては、これまであまりタッチできていなかったが、医学、科学的なエビデンスをどこまで構築できるか、ど

のようなアプローチが必要か考えていきたい。

6. 9月分月次決算等

資料に沿って報告された。